

科目番号	37	科目名	レジャー・レクリエーション論	
英文科目名	Study of Leisure and Recreation			
大学・短期大学名	びわこ成蹊スポーツ		大学	
連絡先	天津市北比良1204番地			
	TEL :	077-596-8420	FAX :	077-596-8429
担当教員	佐藤 馨 (スポーツ 学部 准教授)			
実施方法	対面授業	遠隔授業	対面・遠隔併用	
教室名		会場		
授業期間	2025年4月14日(月)～2025年7月24日(木) <毎週 曜日> 時限・講時 : ~ :			
超過時の選考方法				
成績評価方法	定期試験(筆記)		65	%
	レポート試験(期末)		5	%
	平常点(出席・授業態度)			%
	その他(授業中盤の確認テスト)		30	%
別途負担費用	なし		あり()円	
その他特記事項	毎週1回オンデマンドで配信			
<講義概要・到達目標>				
<p>日本では経済活動だけでなく生活や人生を豊かにするレジャーやレクリエーション活動に目を向け、その重要性を再認識する時期と言える。本講義は、日常生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解するとともに、レクリエーション支援者として必要な基礎知識を習得する。さらに学習指導要領のスポーツ概論「豊かなスポーツライフの設計」にある、各ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツの楽しみ方を理解し、指導時に活用できる知識を学ぶ。</p>				
<授業スケジュール>				
回	月日	テーマ・キーワード		
1	月 日	レジャー・レクリエーション論:ガイダンスおよびレジャー・レクリエーション論の概説		
2	月 日	レジャー・レクリエーションの考え方①レジャー・レクリエーションとは何か		
3	月 日	レジャー・レクリエーションの考え方②現代社会において、なぜレジャー・レクリエーションは必要か		
4	月 日	日本人の余暇生活		
5	月 日	諸外国における余暇生活		
6	月 日	前半までの授業のまとめと確認		
7	月 日	社会福祉とレクリエーション①福祉におけるレクリエーションの意味		
8	月 日	社会福祉とレクリエーション②セラピューティックレクリエーションの意味		
9	月 日	セラピューティックレクリエーションの視点からみたサービスモデルの活用①余暇活用モデル、健康維持・増進モデル		
10	月 日	セラピューティックレクリエーションの視点からみたレクリエーションサービスモデルの活用②楽しさ向上モデル、TRサービスモデル		
11	月 日	レクリエーションによる対人関係能力向上モデルの活用①レクリエーション活用事例		
12	月 日	レクリエーションによる対人関係能力向上モデルの活用②プログラムの作成方法		
13	月 日	現場におけるセラピューティックレクリエーションの活用		
14	月 日	レジャー・レクリエーションとスポーツと健康の関わり②21世紀のレジャー・レクリエーション		
15	月 日			
<教科書・参考書>				
教科書は特に指定しない。				
【参考文献】				
『現代人とレジャー・レクリエーション』余暇問題研究所編著 不昧堂 1997				
『レクリエーション・マネジメント』(財)日本レクリエーション協会編 大修館書店 1994				
『レクリエーション活動援助法』吉田圭一、茅野宏明編 ミネルヴァ書房 2007				
『レクリエーション援助』千葉和夫編 メヂカルフレンド社 1997				
『余暇学を学ぶ人のために』日本余暇学会監修 世界思想社 2004				
『地域福祉論』市川一宏、牧里毎治編著 ミネルヴァ書房 2007				